

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年1月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104951
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム帯迫
所在地	鹿児島市吉野町2826-1 (電話) 099-295-7055
自己評価作成日	平成29年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当グループホームは鹿児島北部吉田インターより車で10分、住宅地に位置しており、円型の建物の中に企業主導型保育園が併設されており、子供たちが施設内に遊びにきたり、庭を走り回る姿が見られたり、施設の大きな行事であるお花見、夏祭り、運動会、餅つきを合同で行い賑やかになった。

・近隣には母体の医療機関や介護老人保健施設など多くの関連施設があり、利用者様の健康管理や緊急時も安心した生活が送れるように支援体制が整っているため、御家族も安心して預けられる。

・地域の自治会や校区コミュニティ協議会に加入しており、地域の行事(運動会)や校区の会合や勉強会に参加している。地域との交流会として炊き出し訓練・お花見や餅つきを施設で行っている。

・裏の畑には1年中色々な作物が植えてあります。今年からは保育園の子どもたちも畑に入り泥まみれで遊んでいる。ボランティアの方々も手伝って頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ ホームは保育園と併設され、近くに商店街がある静かな住宅街に位置している。近隣に母体医療法人や介護老人保健施設など多くの関連施設もある。また、母体医療機関との連携は緊密であり、定期的な往診及び訪問看護師により健康管理がなされ、利用者や家族の安心につながっている。

○ 地域との連携にも積極的で、自治会に加入して地域の祭りや運動会、清掃活動等に参加すると共に、日常的に地域の人々と挨拶や話を交わしている。また、地域の方々との認知症や看取りの勉強会、餅つきをはじめとした交流や、敬老会や誕生会、菜園の手入れなどへのボランティア来訪など交流の機会は多く、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。

○ 防災や接遇、身体拘束、感染症対応等の各種委員会が設置され、それぞれの委員会ごとに月次テーマを設けて有意義な活動を展開している。委員会や職員会議では常により良い支援を実現することに視点を当てた意見交換がなされ、例えば、職場の抜き打ち視察などによる改善活動も積極的に行われている。何より利用者の思いや日頃の雰囲気、ご家族の気持ちも大切に考えた多くの工夫が感じられる。

○ 利用者の自由な暮らしを職員の連携による細やかな見守りで実現している。常に利用者の状態や行動に注意を払い、外出時は付き添うと共に、近所の方々とは見守りや声かけをしてもらえるような関係を築いている。職員アンケートも年1回は行い、職員自身がケアの状況を振り返ると共に、結果を分析してより良い支援に活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に沿って地域の中で毎日を楽しく穏やかに過ごせるように努めている。法人全体の勉強会では唱和をして共有、実践に努めている。	ホームの理念及び職員心得・目標に沿って、地域や家族とのつながりの中で利用者が毎日を楽しく穏やかに、その人らしく過ごせるよう支援している。法人の勉強会及び職員会議・毎日の申し送り時の唱和を通じて理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入、回覧板を回す際、近隣の方達と出来るだけ立ち話を行うようにしている。地域の行事（夏祭り・運動会等）に積極的に参加交流している。GHでの行事に声かけしている。畑で収穫した野菜を近所に配っている	ホームでの地域交流会では餅つきなど行い、敬老会や運動会、毎月の誕生会や畑の手入れなどにボランティアも来られ、利用者は交流を楽しんでいる。自治会及び校区コミュニティ協議会に加入して地域の祭りや運動会、清掃活動、勉強会等に積極的に参加のほか、買い物や回覧板連絡時などに地域の人々と挨拶や話を交わしている。菜園の野菜も近所にお裾分けしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の中でGHの利用者様の様子や事例を通して認知症の方の支援方法や取組みを伝えており、今後認知症サポーター養成講座を行い、広めて行きたいと考えている。ボランティアを積極的に受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご利用者・御家族の参加もあり毎回 GHでの取り組みや活動内容、事故報告、苦情報告等の報告をし、意見交換を行いサービスの向上に努めている。</p>	<p>利用者や家族・地域住民・地域包括センターの職員・民生委員等の参加で、定期的に会議を開いている。その際炊き出し訓練や地域交流会、家族会など行うこともあり、ホームや利用者の現況や行事、事故・苦情等の報告とともに、課題等について議論を行っている。また、事例を基に災害時の対応などもお伝えしている。職員は会議内容を共有して具体的に日々のサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>鹿児島市から介護相談員が年1回来られ、色々と利用者様から要望等を引き出して職員に伝えている。GHの困りごとや分からない事等は必要に応じ市へ連絡、連携を持つよう努めている</p>	<p>年1回は市の介護相談員の受入で、意見交換や情報交換を行い、市担当者とは入退所や認定更新の手続き等のほか、ホームの状況や利用者に関する事も電話や訪問で伝えるなど、必要な意見や情報の交換を行いサービス向上に取り組んでいる。また、市や社協主催の勉強会、吉野地区の福祉連絡会やグループホーム連絡会でも意見や情報の交換を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を設け、定期的に勉強会を行い防止に努めている。一緒に散歩、ドライブに行く、委員会の勉強会で言葉の拘束についても学び、可能な限りご利用者の意思を尊重、行動を制限しないよう努めている。</p>	<p>日中は居室や玄関の施錠は行わず、安全を確保しながら利用者の気持ちを尊重して自由な暮らしを支援している。身体拘束防止と共に、高齢者の権利擁護や虐待防止に関する勉強会を行い、特に言葉による拘束防止や行動制限への理解を深めケアへの反映を図っている。職員アンケートも年1回実施し、職員自身がケアの状況を振り返り、結果も分析して日々のケアに活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待（定義）を定期的に勉強会に組み入れ、特に言葉の虐待が見過ごされる事がないよう職員間で注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々の外部研修では学ぶ機会はあるが、内部での勉強会は今のところないです。今後 必要に応じて学ぶ機会を増やして行くように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にはご利用者やご家族の不安に思っている事や要望等をお聴きし、納得のいくよう説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置しているが、ほぼ活用されておらず、家族会や面会時に意見・要望をお聴きし、運営に反映させている。	利用開始時に利用者やご家族から不安や要望・意見などを伺っている。入居後は利用者の意見や思いを日常会話や表情の見守りから把握に努め、ご家族とは来訪時や家族会時の対話で意見を頂いている。日々の申し送りや職員会議で共有を図り、対応を話し合い、速やかに本人はもとより、ご家族にも電話や写真入りのホーム便りで報告してサービスへの反映を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月2回の職員会議や週1回の部署会議（上司との話し合い）月1回の管理職会議などで職員の意見や提案等を伝えるようにしている。</p>	<p>管理者自身が日頃より話しやすい雰囲気作りに努め、職員会議や部署会議、毎日の申し送り、更には目標面接や随時の個別面談などを通じて、職員の悩みや業務に関する意見等を聞き取り、業務改善やサービス向上につなげている。必要に応じて法人本部とも話し合えるしくみも築かれており、職員の意見反映や育成に配慮がなされている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回のEワークを活用（5段階上司と面談を行い、目標を設定職員個々が向上心を持って働けるように努めている。また、この機会に個々の悩みなども聴くようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々のケアの実際と力量を把握《Eワーク・マイスター》し、法人内外の研修を受ける機会を確保している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉野地域のGHで立ち上げているよかど会に加入しており、勉強会や職員交流（相互訪問）の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用を開始する際にはご本人が困っている事や不安な事等に耳を傾けてご家族との情報交換に努め、ご本人の安心と安全の確保に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時にご家族が感じられる不安や要望、希望されるケアについて言って頂きやすい関係づくりを心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時にご本人、ご家族がまず必要としているサービス・支援を把握出来る様に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人と共に過ごし、支い合える関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の便りに日頃の様子をお伝えしており、ご利用者の誕生日にはご家族と一緒に外食やGHにて食事・お茶等を楽しんでもらえるよう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの場所への外出支援（床屋・美容室・公園・公民館・馴染みの店）出来るだけ途切れないよう支援している。	電話や手紙の取り次ぎのほか、家族や知人・友人の来訪時にはゆったりと過ごせるよう配慮している。利用者やご家族からの情報を「軒下マップ」にまとめ、希望する商店や美容室、公園、地域の祭りや催し物、墓参り、近隣のドライブなどととも、本人の趣味などもご家族とも調整しながら可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は常に把握するようにしている。個々が孤独にならないよう、ストレスとならないような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じて相談に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者個々の思いや要望・意向を汲み取るようにしている。把握出来た内容は記録し、日々の申し送り等で共有している。	利用者との関わりを大切に日頃の表情や雰囲気・会話及びご家族との対話から思いや意向をくみ取るように努めている。個別日誌や日々の申し送り等で共有し、必要な対応を検討し、ご家族とも協力しながら利用者個々のペースや持っている力を大切に、ストレスや孤独感など感じさせないように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を出来るだけ継続して行けるよう今までの生活歴や暮らしぶりをご家族より情報を収集、把握に努めている。軒下マップ作成に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日々の過ごし方を把握し、持っている力を引き出せるよう努めている。出来る事は継続出来る様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の利用者との関わりやご家族、主治医、看護師等の意見、カンファレンス時の職員の意見を反映し介護計画を作成している。	本人・家族の意向や希望、訪問看護師や定期受診時の医師からの意見やアドバイスを、並びにカンファレンス時の職員の意見も基にして、わかりやすい介護計画を作成している。ケアの経過は個別援助生活日誌に詳しく記述され、また、アセスメントやモニタリングに基づき、定期的及び変化に応じて適切に見直し修正されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、気づき等を個別日誌に記録し、職員間で共有、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご利用者、ご家族の要望に可能な限り応えられるよう取り組んでいる（奥様の墓参りに一緒に行く等）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、近所への買い物・病院受診・散髪等行くようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関をかかりつけ医の利用者が多いが入居時には確認を行っている。専門医受診の時は御家族と相談し適切な医療を受けられるよう支援している。	一人ひとりの利用前の受診状況は十分把握し、母体医療機関を主体とした本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を適切に支援している。専門医の受診は主にご家族にお願いしている。また、毎週訪問看護師の来訪があり、受診状況や必要な対応は関係者で共有が図られ、ご家族への連絡も適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の時、利用者様の状態を相談している。月2回の訪問診療。キュアケアネットを活用して、その都度主治医に相談報告している。場合によっては往診をかけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は様子を観に行き、看護師から状態を聴くなどの連携は取れるようにしている。毎週月曜日には回診があり主治医から情報を得ている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては{看取りに関する指針}を定めてご家族に説明を行っている。状態に変化があるときはGHで出来る事、出来ない事を関係者と充分話し合い、チームで取り組んでいる。	重度化や看取りに対する対応は「看取りに関する指針」、「重度化に関する指針」を定めて、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医や看護師と相談して可能な限りの支援・対応ができる体制を築いている。職員には主に訪問看護師による研修も行い共有も図っている。母体病院と24時間体制で連携がとれご家族の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生時に備えて、職員が実践できるように訓練を行っている。年1回応急手当やAEDの訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立会いの下（夜間想定・日中想定）毎月小規模訓練（避難誘導・台風・地震・緊急連絡網）を行い、年1回外部から災害対策の研修を家族・地域の方と戸に受けている。計画立てたか台風で中止でした。	消防署の指導のもと、定期的に夜間も含む火災や自然災害を想定した避難訓練や消火訓練を実施し、毎月自主訓練も行って結果を評価している。また、地域の方々にも参加して頂いて勉強会や炊き出し訓練も行っている。救命講習や災害対応の研修の充実とともに、マニュアルや連絡網の整備、スプリンクラーや自動通報装置等の設置、食料・飲料水等の備蓄も問題ない状況である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重、傷つけないような声かけや対応に気をつけている。勉強会でも言葉遣いについて学んでいる。	接遇研修等の充実や職員会議等で方法を共有して、日々のケアに際して利用者の尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応の防止に努めている。日常の見守りは細やかに、利用者の人格や気持ち、個々のペースも大切に、利用者に関する各種の記録の取り扱いや居室の保護などにも十分に配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや要望等を表出できるように働きかけ、声かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、利用者個々のペースを大切にしたいと考えているが、職員側のペースでしてしまう事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に散髪、美容室を依頼している。出来るだけ起床時に好みの洋服を一緒に選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に応じてお盆拭きや野菜の皮むき等をして頂いている。出来ない方は台所前に来てもらって調理見学をしている。外食や天気の良い日は中庭での食事を楽しまれている。	利用者の好みを献立や味付けに反映させ、とろみやきざみ食等をはじめ、食卓の準備・後片づけ、野菜の下ごしらえ等を手伝ってもらうなど、食事を楽しむ雰囲気作りにも努めている。また、季節感のある食事の提供や利用者とのおやつ作り、家族や職員との外食、家族も参加の誕生会、中庭での花見や食事・お茶会、地域の方との餅つきなど多くの工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々に合わせて食事の提供を行っている。食事形態（刻み・極刻み・ミキサー・おかゆ等）習慣に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており磨き残しは介助している。定期的に歯科訪問を受けている利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターン（習慣）を把握、状態に合わせて早めの対応を心がけている。トイレ誘導時の声かけにも配慮、羞恥心やプライバシーに気をつけている。	利用者の様子見守りは細やかに、24時間記録の排泄チェック表より個々のパターンを把握し、トイレ誘導の際の声かけも含めて可能な援助方法を話し合いタイミングの良い支援に努めている。また、トイレは各居室にあるが、誘導の際には声の大きさや言葉かけにも十分配慮して利用者の羞恥心や不安の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や水分・食事・運動等の便秘予防に努めているが、ほとんどの利用者が便秘気味で内服に頼っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者のご希望があれば予定に捉われず、タイミングや体調に配慮、安全を確保しながら入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	利用者の好みや習慣を大切に、また、体調や安全に配慮してゆったりと入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否されるような場合にはタイミングの良い声掛けや誘導に努め、時間をかけてゆっくり話を交わすなどの対応を心掛けると共に、ミーティングでも利用者 に合った対応を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣を大事に考え、状況に応じて安心して過ごしてもらえるよう支援している。眠れない時はオルゴールを鳴らしたりホットミルクを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法・用量は理解しているものの副作用は把握できていない時がある。分からない時は薬剤師に尋ねるようにしている。服薬後の状態の変化は記録し、共有に努めている。薬事表をすぐに確認できる場所においている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴を把握嗜好品や楽しみ事・役割を持って過ごして頂けるよう支援している。気分転換にドライブ、買い物等の外出支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	必要に応じてご家族に協力してもらいながら利用者の要望や体調に合わせて地域の行事、季節の花見、買い物、ドライブに可能な限り外出を楽しんでいる。日常的に中庭では散歩、お茶・食事などを楽しんでいる。裏の畑にも野菜・からいもがある。	利用者の健康状態や天候に応じて、ボランティアの協力も得ながらの敷地内の花壇や菜園の手入れのほか、日当たりのよい中庭での日光浴や食事会・お茶会、近隣の散歩や買い物・ドライブなどを、車椅子やリフト車なども活用しながら楽しんで頂いている。また、年に数回はご家族の協力も得ながら、地域の行事やイベント、季節の花見、外食、ドライブ等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を持つ、買い物をする等の大切さは理解している。要望のある利用者に対する支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人から要望があった時は電話をかけて話しをしてもらっている。お孫さんの写真入りの手紙は喜ばれている。毎月の便りで写真入りで近況を送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペース部分は音・光・室温や換気調節にも配慮、生活感、季節感を採り入れた設えなどでも居心地良く過ごせる様工夫に努めている。	リビングはゆったりとしたスペースで明るく解放感があり、清潔感や室温・湿度とともに、利用者の移動時の安全確保にも十分な配慮がなされている。季節の花が飾られ、壁には行事の写真や貼り絵などが掲示され、利用者にとって不快に感じる音や匂いなどもなく気持ちよく過ごせるように工夫されている。また、大きな桜の木がある中庭も明るく、天気の良い日は日光浴のほか、併設の保育園の園児や地域の方々との交流も楽しんで頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係は常に把握するようにしている。個々が孤独にならないよう、ストレスとならないような支援に努めている利用者同士が気軽に集える工夫の取り組みに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や身の回りの物を持ってきてもらい、心和む居室の空間作りに努めている。ご自分の居室として安心して過ごして頂けるよう工夫している。	居室は畳とじゅうたんの落ち着いた雰囲気であり、トイレと洗面台・エアコンが設置されている。ベッドの足元には滑り止めの工夫もみられる。利用者馴染みの家具や身の回りのものを自由に持ち込んで頂き、本人が安心して過ごせるよう、また、心和む環境となるようにご家族とも協力しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の出来る事、出来ない事を見極め、安全な生活が送れるよう工夫している。生活導線の環境整備に物を置かないように気を付けている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域に密着したサービス提供する内容を掲げ 毎朝申し送り時に唱和・共有・実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事（夏祭り、運動会等）にも可能な限り参加し、また地域の方々にグループホームでの行事に参加して頂いたり、ボランティアの方に畑など手伝っていただくなどしているが、一部の方々になっている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域に対しての貢献は今のところ発揮できておらず、今後の課題です。運営推進会議の中では利用者様の様子や事例を通して認知症のケアに関する事は伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回利用者様の状態、活動報告や取り組み、事故・苦情研修の報告を行い、委員の意見を参考にしてサービスの質の向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村担当者とは随時相談や報告を行い連携を密に取っている。また、介護相談員の年1回来訪があり、入居者、職員の相談や事業所の実情を伝えている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に身体拘束委員会を中心に勉強会を行い、全職員が周知するよう取り組んでいる。又、各自振り返りを行ったりお互い注意し合える関係を作り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待（身体的、言葉等）についても勉強会を行っている。虐待防止に関する貼紙を貼り、常に意識をしながらケアを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する制度については研修等で学ぶ機会を持つようにしているがまだまだ理解不足で活用はされていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前入居時ご家族に要望や不安に思っていることなどを尋ね、理解していただけるよう説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族とは年2回の家族会時や毎月お便りを送って来訪時になるべく話しやすい雰囲気を作ったり、ご利用者やご家族からの要望がサービスに反映されるように努めております。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の職員会議や部署会議、管理者会議等で提案、意見を話し合う機会を設けたり、その都度意見や相談ができ、業務改善やサービス向上に繋げている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回Eワークを利用、振り返りや評価、目標達成に向け上司と面談、向上心を持って働けるように努めている。又 介護技術面では介護マイスター研修で実技チェックを行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々の力量を把握、年間で計画をたて、順番に法人内外の勉強会や研修を受けてもらうようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉野地区のGHよかど会に参加し、意見交換や勉強会また年1回相互訪問し、交流する機会を設けているなど、地域に向けてのネットワークづくりや地域の活性化を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、入居前のサービスを開始する段階で見学していただいたり、ほうもんし、入居前の様子を確認する等し、ご本人の要望や不安を感じる事を伺い、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階でご家族の不安や要望に耳を傾けて信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にまずスタッフ間で話し合いの場を設け、ご家族からも話を聞き、必要とされる支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見や要望を聴きながら出来る事はして頂き、生きがいを持って共に過ごせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時に日頃の様子をお伝えしている。又利用者様の誕生日にはご家族の要望を尋ね一緒にお祝い出来るよう計画している。またご家族、スタッフ共に協力し支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋・美容室・ドライブ等可能な限り外出の支援に努め、ご近所やお友達も面会に来られている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル（席）の配置を工夫し、又職員が間に入り、スムーズにコミュニケーションが取れ、利用者様同士が良い関係を築けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、関係性を大切にしている。グループホームでは生活中的写真、アルバムやCDにしてお渡しする等工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の状態や表情、声のトーンなどや一人一人に合った思いの確認方法でやで意向を汲み取れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境が出来るだけ継続出来る様に、ご家族より情報収集等に努めている。また、軒下マップ作りを行い、その情報を活用し、ケアに繋げたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や身体状態を良く観察、現状の把握に努めている。変化があった時は、申し送り時に伝達、記録し、職員間での情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際、御本人、ご家族の意向などを基に介護計画を作成して、ケアの経過は個別日誌記録を観てそれを基にカンファレンスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにそってケアの実践を行い、変化や気づきを個別記録に記入し、問題等があったらカンファレンスを行い、職員間で情報の共有して、実践するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要としている事を見極め、「出来る限り柔軟なサービス提供出来るよう努めている。例えば、ご利用者の病院受診介助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ホームの行事を案内したり、ボランティアの受け入れをおこない、繋がりを持つようにしている。また、地域の消防に協力をもらい、訓練等を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、主治医の確認を行い、希望する医療機関での受診を行っている。専門病院受診の時はご家族や職員が付添い適切な医療を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問診療・訪問看護があり、必要な時はその都度相談を行い、指示を貰っている。緊急時は内科へ報告、場合によっては往診依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中等病院との連絡相談を適宜行い、病院と円滑な関係作りに努めている入院中の様子を伺い、早期退院が出来るか利用者にとってどのような対応がいいのか相談、情報交換を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてはご家族に説明行っている。状態に変化があるときはその都度事業所で出来る事、できない事を充分話し合い職員で共有している。職員に対して訪問看護師より看取りケアについても勉強会や指導が行われている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事や事故発生時の対応については全職員が実践できるように定期的に確認を行っている。リスク委員会を中心にマニュアル作成を行い、勉強会を行い、行動できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を実施し、年2回は消防署と合同で訓練を行っている。また、災害時の炊き出し訓練は地域の方にも声かけし、参加頂き実施している。。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けや言葉使いの対応に配慮している。接遇委員を中心に勉強会を行い、プライバシーを損ねない言葉に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望や思い、意向をお聴きする際、選択をしてもらいやすいような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居様の状態により職員ペースで動いている事もあるが、出来るだけ利用者個々のペースに合わせて、安心して穏やかに過ごして頂けるように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	必要におおじ散髪、カットの支援をしたり、離床時には身だしなみを整えてから誘導を行うようにしている。出来るだけ好みの洋服を一緒に選ぶようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に好みのメニューを聞き、目の前で調理することで、目、耳、鼻で感じて頂き、より食事を楽しみにしていただいたり、外食や好みの物を外部より取り寄せたりして食事を楽しんで頂けるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事の提供を行っている。（食事形態・食事量・温度）食事量、水分量を記録、時間関係なく状態に合わせて支援している。（食べたい時に食べたい物を召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて口腔ケアを行っている。出来るところまではして頂き、磨き残しは介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をつけており、利用者様のトイレ誘導の声掛けやトイレに行くタイミング（しぐさ等）を見逃さず早めの対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や水分、腹部マッサージ等出来るだけ資源な排便ができるよう努めているが、便秘症の方には内服でも対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の希望やタイミングに合わせて、本人のペースで入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ昼間の活動（日光浴散歩等）を促し、個々の生活習慣に合わせて安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法、用量は理解しているものの副作用は把握できていない時もあり。その都度薬剤師に尋ねたり調べるようにしている。服薬を行う際には誤薬のない様複数人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の趣向を把握し、状態に合わせて役割を持って頂いたり、楽しみ事（レク、散歩、テレビ視聴、新聞等々）を取り入れている。又気分転換にドライブや外食、買い物支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出の希望があるときには、出来るだけ屋外に出かけられるようご家族にも協力もらいながら支援してしる。(地域の行事、買い物、外食、ドライブ等々) 中庭には日常的に出やすい建物の作りになっているので外気には触れる機会は持っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しており、希望される方には、家族の了解を得て、買い物時ご自分の財布から使えるよう支援に努めているが、現在ほとんどの利用者の方が希望されてない。お一人の方はお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	現在自ら希望される方はいないがたまにご家族の安否が心配という方は電話をかけ、安心して頂いている。毎月の便りで職員が代弁で様子を書いて送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間、台所がワンフロアになっており、キッチンが対面式になっているので解放感があり、中庭も広くGHの真ん中には桜の木が季節を感じさせる空間となっている。音・光・室温に配慮、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の状態や気の合った利用者同士がゆっくり過ごせるようソファやテーブルの配置に配慮、居場所の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は畳とじゅうたんを敷いてありトイレと洗面所が設置されている。使い慣れた家具や好みものを持ち込んで、ご自分の部屋として安心して生活できるように工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベットから立ち上がる際、転倒のリスクのある方は足元に滑り止めを敷き、安全に立ち上がれるようにしている。安全に移動が出来るよう生活導線の環境整備にも気を付けている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない